

事務事業マネジメントシート(平成28年度実績と平成29年度計画)

平成29年12月21日更新

事務事業名	人権啓発老人憩いの家維持管理事業				<input type="checkbox"/> マニフェスト関連 <input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連 <input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連				
総合計画体系	政策	3	教育の健康		所属部	教育委員会事務局教育部	課長名	飯開輝久雄	
	施策	12	人権が尊重される社会づくり		所属課	人権啓発教育課	担当者名	松岡将司	
	施策の柱	44	人権教育啓発活動実践の推進		所属班	啓発教育班	(内線)	2512	
予算科目	会計一般	款3	項1	目8	事業連番	10883	根拠法令	合志市生坪・立割老人憩いの家条例	成果優先度評価結果 : ⑫ コスト削減優先度評価結果 : ⑥
終了、開始年度	<input type="checkbox"/> 28年度で終了 <input type="checkbox"/> 28年度から開始				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 57 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( ~ 年度)			

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	昭和56年から57年にかけて同対事業で建設された、老人憩いの家の管理を行う事業。昭和57年度に、老人福祉法並びに地域改善対策特別措置法の精神に基づき、老人に対して心身の保持、教養の向上及びレクリエーションのための施設として設置したので、その維持管理を開始した。平成18年2月の2町合併により、法令が、合併前の「生坪老人憩いの家の設置及び管理等に関する条例」と「立割老人憩いの家の設置及び管理等に関する条例」から「合志市生坪・立割老人憩いの家条例」に変わった。
【業務の流れ】	光熱水費(ガス)の請求に基づく支払い事務。施設修繕費の支払い事務。
【主な予算費目】	施設修繕料
【意見や要望】	生坪老人憩いの家について、地元より解体の要望有り。

1 現状把握の部 (DO, PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分:
① 手段(主な活動) 28年度実績(28年度に行った主な活動) (DO)	地元区に施設管理を委託して維持管理を行ってもらった。立割老人憩いの家については、平成20年度から放課後西合志第一小学校児童クラブの利用している。	29年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN)
		立割老人憩いの家については、放課後西合志第一小学校児童クラブの利用 生坪老人憩いの家については、平成29年度に解体工事を予定している。
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 人	予算の主な増減の理由
→ ア: 利用者延べ人数	人	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		② 対象指標(対象の大きさを表す指標)
施設		(単位) 人
		→ ア: 施設利用対象者数
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)
良好な施設機能を維持する		(単位) 件
		→ ア: 施設維持管理上不具合・トラブル件数
*③成果指標設定の理由と29年度目標値設定の根拠		総トータルコスト
不都合なく安全に利用してもらうための維持管理事業であるため。		全体計画
		~ 年度
		0

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	26年度実績(決算)	27年度実績(決算)	28年度目標(当初予算)	28年度実績(決算)	29年度目標(当初予算)	30年度予定	31年度見込	32年度見込
① 活動指標	人	人	4,056	3,200	2,000	3,200	3,000	3,000	2,000	0
② 対象指標	人	人	60	57	65	65	60	60	60	0
③ 成果指標	件	件	0	0	0	1	0	0	0	0
投資入費量	国庫支出金	千円								
	都道府県支出金	千円								
	地方債	千円								
	その他	千円								
	繰入金	千円			20		1,010	30	30	
	一般財源	千円								
	(A) 事業費計	千円		0	0	20	0	1,010	30	30
(A)のうち指定経費	千円		0	0	0	0	0	0	0	0
(A)のうち時間外、特勤	千円		0	0	0	0	0	0	0	0
正規職員従事人数	人	人	3	2	3	3	3	0	0	0
延べ業務時間	時間	時間	30	40	40	70	40	0	0	0
(B) 人件費計	千円	千円	119	148	159	0	159	0	0	0
トータルコスト(A)+(B)	千円	千円	119	148	179	0	1,169	30	30	0

事務事業名	人権啓発老人憩いの家維持管理事業	所属部	教育委員会事務局教育部	所属課	人権啓発教育課
-------	------------------	-----	-------------	-----	---------

## 2 評価の部 (CHECK)

\*原則は28年度の事後評価、ただし複数年度事業は28年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①28年度目標達成度評価	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【理由】 平成28年4月の熊本地震により瓦が破損したために補修を行った
	②29年度目標達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 次年度も西合志第一小学校児童クラブの利用が予定されており、施設維持管理上の不具合やトラブルが発生した場合には、早急に対応する。
有効性評価	③成果の向上余地	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 現状のように、施設のトラブルや不都合がないよう維持管理に努める。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 人権同和教育集会所維持管理事業近くに集会所等の施設があり、二重の維持管理が必要となっているため、見直しの余地がある。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 必要最小限の経費を計上しており削減余地はない。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 必要最小限の職員で事務をしており、事務内容からして現状のままが適切であるため削減余地はない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 現状としては地元の人の利用が主であるが、市民を対象としており、公平・公正である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 施設管理については、地元区に委託している。

## 3 評価結果の総括 (CHECK)

地元区に施設管理を委託して維持管理を行ってもらった。立割老人憩いの家については、放課後、西合志第一小学校が児童クラブとして利用している。他の事業からの憩いの家の利用についての協議があったら検討していく。

## 4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (ACTION)

(1) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 (有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 (効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 (公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持 (従来通りで特に改革改善をしない)	(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持																					
	低下																					
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題 (壁) とその解決策																						